2度目のCAMBODIA

瀬戸　千翔世

去年帰国してから、もう一度あのアンコールワットでの朝日と夕日が見たいと、私は日々の中で思うことが何度もありました。しかし、私はこのスタディーツアーの話を聞いた時、1 度躊躇しました。その理由は、スケジュールにトゥールスレイン博物館と killing field が入ることが予想できたからです。この 2 つの施設は、私達のサークルの発端理由である、カンボジアの暗い過去の歴史が詰まった場所です。なので、行くことは必須です。

カンボジアの内戦が終結してから何十年と経っていません。クメールルージュの時の出来事は、今もカンボジアの人々の心に大きな傷として残っていました。去年出会った人の中には、その時のことを聞くと口を閉ざした人もいました。私は去年、あまりに残酷な過去の事実をみて、大きなショックを受けました。もう 1 度訪れるのをためらった理由がそこにはあります。

どうであれ、私達の旅の目的は自分達の絵本をカンボジアの子ども達に届けることです。今年も、たくさんの笑顔に出会うことができました。今回は、通訳がいたので子ども達と一緒に日本語とクメール語を発音し、ただ絵本を渡す以上のことをすることができました。数を数える絵本を聞いている時の子ども達は真剣で、物語を聞いているときは楽しそうで、私も楽しかったです。私の大好きな絵本で笑顔になる子ども達をみて、また絵本が好きになりました。みんなすごく人なつっこくて、きれいな目をしていました。笑顔は、見た人も笑顔にする力があると思います。そう思える瞬間を何度も味わえて幸せを感じました。どこの国でも、いつでもこんな時間が流れていたらいいのに、と思いました。そして、笑顔が途絶えてみんなが虐殺に怯えたクメールルージュ時代を思い、胸が痛みました。

カンボジアに行くと、私は元気がもらえる気がします。もしかすると、常夏という季節が原因かもしれません。他にも理由はたくさんあります。カンボジアでは、バイクに 3 人乗りなんて当たり前です。トラックの荷台にだって人がたくさん乗っています。横断歩道のないところを、歩行者は普通に横切ります。ある意味、日本より実用的な社会なのかもしれません。トゥクトゥクドライバーは観光客を必死に捕まえようとしていて、道端にはマーケット。どこもキレイに整備された日本にいるよりも、活気があります。大げさに聞こえるかもしれませんが、生きているって感じることができる気がします。同時に、日本がどれほど裕福な国で、そんな国で暮らせている自分がどれだけ幸せかも感じることができます。

今回の旅の途中で大切な絵本のクメール語訳に、間違いがあることがわかりました。森本さんの所で働いているスタッフさんの力を借りて、一旦すべての時間を翻訳の訂正にまわしました。1 日中室内にこもって訂正をした日は、このことがなければできたであろうことを考え苛立ちも募りました。しかしこうなったのは、去年の旅を今回に生かすべく日本で十分に活動できていなかったからです。それには私に大きな責任があり、とても申し訳なく思っています。この旅でサークルとしてしなくてはならないことや、私自身の課題も見つかりました。

今回お世話になった皆さん、一緒にいった 3 人、クレイグ、ありがとうございました。